



一般財団法人

難病治療開発機構ニュース

Vol.7-3 November 2019 発行:一般財団法人難病治療開発機構

2019年11月30日(土)に三重県志摩市にて「第4回地域包括ケアセミナー」を開催致しました。

今回は、「地域に根差した医療」をテーマに、「地域に根付くりハビリテーション医療と先端医療の融合を目指して」を当財団理事長の西岡久寿樹がリハビリテーション、在宅医療を中心に講演し、「志摩半島での在宅ケアの取り組み」を西岡記念セントラルクリニック院長の西岡洋右先生が実際の症例を提示されながら講演をされました。

当日は患者様やそのご家族がたくさん参加され、会場は熱気に包まれておりました。



今回のテーマは、地域医療に焦点を当てて特に疼痛に対してのリハビリテーションの重要性、在宅医療の必要性などを二人の先生が解説されました。

西岡久寿樹理事長は、リハビリテーションの意義と訪問医療の重要性を述べ、特に高齢者の疾患として今もっとも注目されているサルコペニア・フレイルについても解説され、この疾患を予防するためにはリハビリテーションが重要な役割を担っていることを強調されました。

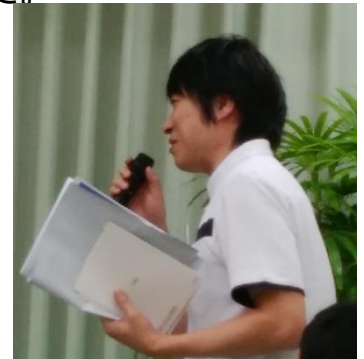
また、都心部ではなかなか見られない医療の環境として、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ケアマネジャー、医療事務スタッフからなる医療チームが中心となったリハビリテーション、訪問看護、居宅支援事業などが、志摩の地には揃っていることも挙げられ、今後の高齢者医療の発展についても解説されました。

また、西岡洋右先生は、実際に先生が経験された訪問医療について症例を挙げながら、在宅医療の重要性と必要性を解説されました。

特に在宅医療は医師だけではなく、訪問看護を担う看護師、薬剤師、また訪問リハビリを行う理学療法士の役割の重要性を述べられ、訪問診療＝終末期医療というイメージが強い傾向があるけれど、回復されて通院ができるようになったという症例も取り上げられました。

講演終了後には、セントラルクリニックの患者様がリハビリテーションを実際に受けて、車いすから自力で歩けるようになったとお話してくださり、担当理学療法士がその過程を説明するという場面もありました。

会場の皆さんは、身近に起こりうる疾患と訪問医療の大切さについての解説を熱心に聞き入っていました。





地域に根付くリハビリテーション医療と先端医療の融合を目指して

西岡久寿樹
政策研究大学院大学Global Health Care Senior Fellow
公益財団法人日本リウマチ財団 常務理事

「令和」の現代社会は少子化に伴う超高齢化社会を遅かれ早かれ迎えます。

こういった超高齢化社会が当たり前の状況になる将来、東京に代表される数多くの集合住宅は老朽化し、住居はいわゆるサルコペニア・フレイルを発症した超高齢者でいっぱいになります。このため、老朽化の修繕などできない状態が起こり、莫大な数の高齢者**難民**が生じると予測されます。さらにこのことによって、都市機能は極めて不完全な状態となりフレイル状況に陥ることが容易に予測されます。

しかし、これとは真逆の現状にある志摩半島は、高齢者のための居宅介護支援事業が地域社会に根を下ろす状況に導くことが可能です。このことから前述したような都市部からの高齢者難民流入の拠点のひとつになる可能性が現実としてあり得るかもしれません。

つまり、高齢者のケア体制の確立が極めて大きな事業を形成する可能性もあります。

今回は、生涯自立して活動するためのリハビリテーション医療、通院が難しくなった場合の訪問・在宅医療について解説したいと思います。

特に、最近注目を浴びているサルコペニア・フレイルが、一定レベルでの科学的根拠を持ち、特に寝たきりや認知症のケアを必要とする多くの高齢者の疾患群の治療に一定のサイエンスとしてのレベルで確立され、役立つことが考えられます。



志摩半島での在宅ケアの取り組み

西岡洋右
西岡記念セントラルクリニック 院長

我が国では少子高齢化が急速に進んでおり、志摩市でも高齢化率は39%まで上昇し、今後もその傾向は続いていくと考えられています。特に若い世代の人口が減少していることから、高齢者の独り暮らしや老老介護など様々な問題が生じてきています。

元気で生活している間は良いですが、ふとしたことで身体の調子が悪くなると途端に、通院困難になった場合にどうするか、人生の最期をどこで過ごすか、それらを誰が支えるかなど、複数の問題が表面化してしまうことも多いのが現状です。

それらに対する答えの一つになりうるのが良質の在宅ケアと言えます。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、在宅ケアがいかに行われるかという点が重要です。

今回は、実際の症例や当院での取り組みを紹介しながら、より良い在宅ケアを行うためのポイントをいくつか挙げたいと考えています。セミナーを通して、在宅ケアに対するイメージを少しでも持って頂くことができれば幸いです。



一般財団法人難病治療開発機構 事務局

〒100-0013東京都千代田区霞が関1-4-1日土地ビル1階

電話:03-3580-8532 FAX:03-3580-8533 E-mail:info@jmrf-nanbyou.org

URL: <http://www.jmrf-nanbyou.org/>

本紙を許可なく転載することを固くお断りいたします